

現代イングランド・フットボールの諸問題とサポーターズ・トラスト —マンチェスター・ユナイテッドを中心として—

English Football and Supporters Trust -Case Study on Manchester United-

1K07B168-6

原田 真宜

指導教員 主査 石井昌幸 先生

副査 武藤泰明 先生

【序章】はじめに

1980年代以降、イングランド・フットボール界ではフーリガン問題やヒルズボロの悲劇、さらにはマードックの英国進出によるメディア構造の変化など様々なことが起きた。その結果、イングランドのフットボールはビジネスとして急速に発展し、ヨーロッパ三大リーグの中で最も「金のなる」リーグとなったが、その一方で、クラブにとって一番重要な存在であるはずのサポーターはないがしろにされてきた。

そんな中、サポーターたちの声をクラブに届けようとするサポーターズ・トラストという組織が立ちあがった。サポーターズ・トラストは会員からお金を集めて共同でクラブの株式を購入し、株式の持ち分比率を高めることによってサポーターのクラブ経営への参加を可能にする。本稿ではマンチェスター・ユナイテッドのサポーターズ・トラストと1998年と2005年でそれぞれ起きた2つの買収騒動に焦点を当てながら、イングランド・フットボールの問題を明らかにし、同時にサポーターズ・トラストが存在する意味について考察する。

【第1章】マードックによるマンチェスター・ユナイテッド買収未遂事件(1998)

1998年、ルパート・マードック率いる衛星放送会社BskyBが、マンチェスター・ユナイテッドの買収を試みた。

この買収計画は、ファンはもとより、財界や政治家をも巻き込んだ大騒動に発展したが、結局、政府機関であるMMC（独占合併委員会）の介入によって、頓挫することとなった。MMCは買収が成立すれば、①BskyBはプレミアリーグの放映権獲得競争で圧倒的に有利な立場を占めることになること、②資金力のあるビッグクラブとそうでない中小クラブとの経済格差がさらに拡大し、プレミアリーグ全体に悪影響をもたらす可能性が高いこと、を理由に買収を認めない考えを表明した。また、買収計画以前のマードックのイギリスでの活動についても考察し、イングランドのスポーツを取り巻くメディア構造の変化についても明らかにした。

【第2章】グレイザーによるマンチェスター・ユナイテッド買収問題(2005)

2005年、米国人実業家であるマルコム・グレイザーは1500億円以上もの金を投じ、マンチェスター・ユナイテッドを買収したが、この買収の裏には、外国資本のプレミアリーグへの流入、放送権料高騰によるビジネス構造の変化があった。1990年代後半から外国人投資家の動きは活発化し、次々にクラブが買収されていった。同時に放映権料に頼るビジネス

モデルがプレミアリーグでは当たり前となっていたために、借金をしてでもチームの強化を図り、負債を積み上げるクラブが続出していることが明らかとなった。

【第3章】サポーターズ・トラスト

サポーターズ・トラストには法人格が存在し、そのため議決権行使の方法や理事の選出方法等の規定が明確である。また、サポーターズ・トラストの定款には、「相互扶助（co-operative）の精神」と「コミュニティへの貢献」が明記されており、サポーターズ・トラストにはいわば団体としての公共性が認められていることが分かった。

1998年のマードックの買収騒動においては、二つのサポーター組織であるIMUSAとSUAMが活躍した。このIMUSAとSUAMの活動によって、政府もこの騒動に介入することになったため、これら二つのサポーター組織の影響力、功績は大きかったと言える。2005年のグレイザーの買収騒動においては、既存の組織の反対運動の上に、2010年に入ってからマンチェスター・ユナイテッドの富裕層を中心としたサポーター組織、レッド・ナイツが設立され、クラブの買い戻しを図っていることが明らかとなった。

【終章】おわりに

ここまでマンチェスター・ユナイテッドでの二つの買収騒動を通してイングランド・フットボールの問題とサポーターズ・トラストについて見てきたが、サポーターズ・トラストには一定の効用と、しかしながら限界があることが明らかとなった。まず効用であるが、それはサポーターが少なからずクラブの経営に参加できるような仕組みが整いつつあることにある。サポーターが自分たちの応援するクラブを誇りに思う気持ちがあるからこそ、このようなサポーターズ・トラストの重要性は増す。だが一方でその限界とは、クラブの意思決定権を容易に変えられないことにある。いくら株を買うことのできる組織ができあがったとしてもそれが少数であればクラブには何ら影響を及ぼすことはできない。これは1998年のマードックによる買収事件で明らかになったことでもある。しかし、今後サポーターズ・トラストが組織として大きくなれば、サポーターズ・トラストによるクラブ運営が可能になるかもしれない。この点でサポーターズ・トラストは今後大きな可能性を秘めていると考えられる。